

## はじめに

札幌におけるブリッジ活動の歴史について、以下のとおり過去の会報（JCBL BULLETIN）に掲載されています。

この冊子では、そのうちのいくつかについて転載しました。

（色変わりの記事を転載）

先人のブリッジに対する熱意が伝わってきます。

巻 / 号	西暦年	投稿者	タイトル等	備考
13/3	1966	岩本 隆茂	学生クラブ	昭 41
13/5	1966	大竹 昭博	北海道支部設立さる	昭 41
14/4	1967	宮崎 功	千歳 BC	昭 42
15/2	1968	大竹 昭博	北海道支部近況	昭 43
16/6	1969	檜川 哲次	北海道の雪祭り	昭 44
17/2	1970	渡利 千波	北海道遠征記	昭 45
27/2	1980	佐藤 健	札幌からの便り	昭 55
27/6	1980	佐藤 健	北電 BC のご案内	昭 55
42/5	1995	田村 徹	札幌のブリッジ界について	平 07
53/2	2006	尾形 圭史	札幌にブリッジ常設会場ができるまで	平 18

## 目 次

1. 北海道支部設立さる	002
2. 北海道支部近況	003
3. HOKKAIDOU IMP & HBC CUP / SNOW FESTIVAL	004
4. 札幌のブリッジ界について	006
5. 札幌にブリッジ常設会場ができるまで	010

# 北海道支部設立さる

[会報 13/5 (1966-10)]

大竹昭博

北海道の楽しい冬が、アッと云う間に来る様に、当地のブリッジ愛好者の組織化は、にわか機運が熟し、本当にアッと驚く間に道支部が設立されました。

以前から道内に愛好者が多く居ることは推察されていたのですが、ここに来て地元有力法人のバックアップが加わり、にわかにな乗り出る人が輩出したためです。

十月二十三日日曜日、おりから晴天に恵まれ、パークホテルのパールルームに六十人以上が集まりました。東京から水谷宮三氏の御来道を得、集った人々は北大・電々公社・千歳航空団・在日米人のブリッジは飯より好きと云う連中ばかり。設立総会では設立趣意書・会則・月例試合や IMP リーグ実施の計画が満場一致で可決され、引続き水谷氏その他地元法人の祝辞があり、北海道放送盃・エーストランプカップ寄贈の披露がなされ、ここにめでたく JCBL 北海道支部は誕生しました。

この後で、全員期待のトーナメントがひらかれ、11 テーブルの盛況で参加者は皆北海道初のビッグイベントに興奮気味でした。結果は別報の通りで 設立発起人は皆入賞し各々その面白を保ちました。

設立に際し、暖い後援を寄せて下さった北海道放送・北海タイムス・毎日新聞・東洋トランプの方々紙上を借りて心から厚く御礼申し上げます。

それから遠路はるばるお越し下さった水谷氏はじめ JCBL 本部の皆様の行き届いたお心配りにも深甚の謝意を表します。これ無くば当日の成功は思いも及びませんでした。

(北海道 大竹昭博)

## □当日の試合結果

Major tournament in Hokkaido

SPECIAL CELEBRATION TOURNAMENT FOR ESTABLISHMENT OF JCBL HOKKAIDO BRANCH (Open pairs) sectional, 1 session, 10 tables, Mitchell, ve.77

October 23, Sapporo Park Hotel, Sapporo;

NS:	1)	Calvin C. Corbin – Isao Miyazaki	83.5
	2)	Toshikatsu Kitamura – Akihiro Ohtake	65.0
	3)	Kenneth L. Miller – Michel Conover	62.5
	4)	Mitsushiro – Oka	59.5
EW:	1)	Fujio Nozaki – Hideharu Araki	118.0
	2)	Lawrence J. Kreimer – Robert J. Harkey	116.5
	3)	Junichi Nakahara – Osami Tsukamoto	98.5
	4)	Miss Kazuko Satoh – Yasusaburo Kuga	98.5

# 北海道支部近況

[ 会報 15/2 (1968-3/4) ]

大竹昭博

## 1. 年間計画

6月以降の行事計画を下記の通りきめて居ります。ご来道の節はぜひお立寄りの上、一同に刺激を与えてくださる様お願い致します。

- 6月 18日  
千歳 (MMP.Individual)
- 7月 28日  
札幌経済センター (Sect., 北海道 Cup)
- 8月 18日  
千歳 (MMP.)
- 9月 8日  
札幌経済センター (MMP., T-O-P)
- 10月 6日  
千歳 (Sect., American Consulate Cup)
- 11月 10日  
札幌経済センター (MMP, Japanese-American Pairs)
- 12月 15日  
千歳 (MMP.)
- 1月 19日  
札幌経済センター (Sect., HBC Cup)
- 2月 3日  
札幌グランドホテル (雪祭り MMP)
- 3月 10日  
千歳 (MMP.)

## 2. IMP リーグ

別紙の通りの結果をもって終了しました。また、期間中のメンバーの転出により札幌セクションが4チームという味気のないことになりました。

(以下、省略)

(北海道 大竹昭博)

# HOKKAIDOU IMP & HBC Cup/ SNOW FESTIVAL

[ 会報 15/2 (1968-3/4) ]

## □ 1968 年の北海道 IMP リーグ

Chitose	Rank	Total	1		2		3		4	
1. Miyazaki	3	27.92	xxx		6.09	8.00	3.53	2.38	7.11	0.00
2. Nozaki	4	5.10	1.10	0.00	xxx		0.00	0.00	0.00	4.00
3. Walker	1	33.59	4.47	5.62	8.00	8.00	xxx		4.32	3.18
4. Corbin	2	29.39	0.89	8.00	8.00	4.00	3.68	4.82	xxx	

Sapporo	Rank	Total	1	2	3	4	5
1. Iwamoto	1	30.88	xxx	6.88	8.00	8.00	8.00
2. Shimakawa	4	9.12	1.12	xxx	0.00	8.00	0.00
3. Sonoda	3	18.86	0.00	8.00	xxx	8.00	2.86
4. Tamura	5	0.00	0.00	0.00	0.00	xxx	0.00
5. Ohtake	2	21.14	0.00	8.00	5.14	8.00	xxx

## □ 1969 年の北海道 IMP リーグ

No	Captain	Rank	Total	1	2	3	4	5	6
1	島川	3	20.65	xxx	3.89	6.09	1.67	1.00	0
2	戸田	6	12.64	4.11	xxx	2.38	0	6.15	0
3	大竹	5	16.45	1.91	5.62	xxx	6.92	2.00	0
4	宮崎	2	23.41	6.33	8.00	1.08	xxx	0	8.00
5	Hinson	1	29.10	7.00	1.85	6.00	8.00	xxx	6.25
6	Boxberger	4	17.75	0	8.00	8.00	0	1.74	xxx

HBC CUP (Open Pairs)

(January 31, 1970) Hokkaidoh Kaikan, Sapporo

6C7, 10 tables, 1 session, ave. 84

1.Watari Chinami - Shioya Kenji	106.5
2.Sonoda Kazuo - Numata Takashi	104.0
3.Jacobs, Robert G. - Hinson, Robert E.	102.5
4.Iwamoto Takashige -Suzuki Nobuo	95.0
5.Miyazaki Isao - Teramoto Masaaki	94.0
6.Kaya Akira - Kaya Itsuko	92.0

SNOW FESTIVAL TOURNAMENT (Open Pairs)

(February 1, 1970) Hokkaidoh Kaikan, Sapporo

6C8, 10 tables, 2 session, ave.144

1.Mizutani Eizo - Hisatomi Hiroshi	193.0
2.Hikawa Tetsuji - Okuyama Taisaku	181.5
3.Honda Shoetsu - Sasaki Masamitsu,	173.5
4.Kaneiwa Yoshiko - Yamada Akihiko	172.5
5.Iwamoto Takashige - Suzuki Nobuko	168.5
6.Donnalley, Goedon - Fitzgerald Ernest Jr	167.0

# 札幌のブリッジ界について

(地方クラブ紹介②)

田村 徹 (千歳 BC)  
1995 年 (平成 7 年) 10 月記

札幌のブリッジ界について、北海道電力ブリッジクラブの尾形圭史の了解のもとに、私が紹介することとなりました。

## 1. 歴史

道内の歴史については、昔活躍していた人がほとんどいなくなったため、私の知りうる範囲内で述べてみることにします。

道内のブリッジは昭和 30 年代後半か 40 年代前半頃に、宮崎功氏等により千歳の自衛隊関係者及び駐留米軍を中心にして始まったようです (千歳ブリッジクラブの名前の由来です)。そして昭和 40 年代に札幌でも浅井享 (現富山)、岩本隆茂氏等の北大関係者を中心にブリッジが始まりました。もう随分前になりますが横浜ブリッジセンターで、その頃仕事の関係で在札していて、主要メンバーのおひとりだった大竹氏にお会いしたことがあります。私は昭和 40 年代の後半の大学 2 年の時にブリッジを知りましたが、市内の北にある民間のアパートの 1 室で、例会が行われていました。当時北大は、将棋部のメンバーが中心で、大学リーグにも参加していたようです。その中には、現在でも首都圏で活躍している方もいます。飯? 氏、小? 氏、山? 氏等です。北大のクラブはこれら主要メンバーが卒業した頃、自然消滅したようです。

次に昭和 50 年代前半に、佐藤健・佐野正両氏が中心となって、北海道電力ブリッジクラブが設立され、これが現在の札幌ブリッジ界の基盤となっています。佐藤氏は道内のブリッジの発展、普及に活躍されました。同氏は社内でブリッジを普及させるだけでなく、道電波管理局、電電公社、北海道警察、北大等のブリッジを知っている人たちに参集を呼びかけました。その頃、私は既に就職して、ブリッジとは離れていましたが、電話で無理やり勧誘されたのがこれ程までにブリッジにはまり込むきっかけとなりました。当時まだ 20 代だった会員番号 8 万代の多数のプレイヤーが現在の札幌ブリッジ界を背負う人材となっています。昭和 50 年代のこの時期は同世代の人たちが多いせいもあったと思いますが、私のブリッジ人生の中で最も楽しかった時だったような気がします。

お盆の頃に夏期合宿が札幌近郊の温泉で行われていました。とにかく朝から明け方までブリッジ三昧です。ブリッジをしていないのは食事の時だけ、その時でも当然話しはハンドや浅井先生が話してくれるブリッジに関する過去の逸話でした。別に温泉でやる必要はなかったかもしれませんが。入る暇はほとんどなかったのですから。また、浅井先生が富山大に移られてからは富山リジョナルにも参加するようになり、それがきっかけとなって、東京、浜松等の主要競技会に積極的に参加するようになりました。

現在は、海外や道外でブリッジを覚えた奥様方が参集してくれるようになり、主要メンバーとなって、札幌のブリッジ界を支えています。

## 2. 現状

札幌には北海道電力と千歳の2つのクラブがあり、仲良くやっています。前に会報でもどなたかが述べられていましたが、地方で同じ場所に2つのクラブがあることは非常に良いことと思われまます。千歳クラブは千歳市ではなく、札幌で活動しています。昭和60年代の前半に、同クラブのマネージャーだった佐々木正光氏から同クラブの運営を私が委されました。

現在、実際にフルに活動している札幌のブリッジ人口は約30名程度と思われまます。男性は当然少なく1/4程度しかいません。年齢は40代以降がほとんどで、20代は中国からの留学生が一人います。システムは5カードメジャーがほとんどで、プレシジョンが4人、ブルークラブが1人（当然使う機会がなくなった）といったところでしょう。

ウィークリーは週2回、月曜の昼と水曜の夜に、マンスリーは原則として、第1土曜日の午後と第3日曜日の午後に行われています。多くて7テーブル止まりです。IMPリーグは年1回行われています。

雪祭り大会を除くセクショナル以上の試合を列記しますと、新年セクショナル（1月上旬、オープンペア）、ライラックセクショナル（5月中旬、オープンチーム）、出光杯（7月上旬、オープンペア）、北海道IMP選手権（7月上旬、オープンペア）、読売新聞社杯予選（8月中旬）、外務大臣杯予選（10月中旬）、高松宮妃杯予選（12月中旬）があります。

なお、出光杯は13年ほど前、苫小牧に来ていらした出光綾子さんの寄贈によるものです（出光さんは苫小牧から熱心に札幌のウィークリーやマンスリーに通って来られていました）。

佐藤氏は7月上旬の2日間にわたって行われる大会を、道外からも参加してもらえるイベントとして考えていました。札幌の最も良い季節は6月～7月上旬の初夏と私も思っていますので、そういう意味でもこの時期に大きな大会を何とか開催する方向で検討していきたいと考えています。

私が会員となった頃、ライフマスターになることは夢のようなことでしたが、武田千恵子が1990年に道内第1号となってから、谷幸子、私、私のパートナーの石塚実真子、坪谷七魚子の計5名がなることができました（坪谷と私は東京で別の時期にライフマスターのお祝いをやっていたいただきました）。もうじき、吉本浩子が6人目となりそうです。札幌では、ブリッジを初めてから最低でも10年以上が必要です。私も会員になってから10年以上かかりました。

## 3. ブリッジの普及について

地方クラブは人数が少ないため、家庭的で、ぎすぎすしていないという長所はありますが、逆にサークル化し過ぎて閉鎖的になり、新参者はなかなかその中に入って行くのがつらい面もあることも確かでしょう。また、新たなプレイヤーを獲得し、定着させるのは非常に難しいことです。特に若い人を獲得するのが。

札幌でもどこの地方クラブにもみられるように、ブリッジ人口の高齢化が進んでいます。数年前まで佐藤氏が熱心に初心者に対する指導をしてきていました。同氏が転勤により札幌を離れてからは全くの手つかずの状態、新たなメンバーは道外からの転勤者しかありませんでした。私にも責任の一端があると反省しています。

今年、文部省主催の生涯教育の一環としての「学びピア」が9月に札幌で開催され、連盟の檜川氏の御尽力により、その中で体験教室を行うことができました。その人たちを中心に、10月から入門コースを週1回開催して、私が教えています。全く知らない人、かつてどこかでブリッジに触れたことがある人、学生を含め、現在10名以上が参加し

ています。檜川氏によれば、定着率は1割程度だそうです、教える側の私の腕しだいかもしれません。

ブリッジは面白くなると、完全にはまってしまいますが、そこへいくまでの垣根が高いことが問題です。

私見ですが、ブリッジを続けていくには二つの要素が重要だと思います。一つはパートナーを見つけることです。パートナーがいれば、無理してもブリッジを最優先事項としなければならなくなるからです。もう一つは、ブリッジをしている時だけでなく、ブリッジをきっかけとして仲間になることでしょう。ブリッジが終了した後等に、食事でもしながら気楽に話ができる状態になれば、それだけのためにも出かけて来るのですから。私は幸運にも、良い先輩や仲間とブリッジ人生のパートナーを見つけることができました。

#### 4. 雪祭りブリッジ大会について

雪祭りブリッジ大会は、かつて昭和40年代に行われていた大会を復活させるべく、北海道電力ブリッジクラブが中心となって1982年に始まり、今年で第14回を迎えました。数年前までは、雪祭り期間中に開催されていましたが、道外参加者のホテルあるいは交通機関の確保の問題を考慮して（とにかく、高くは確保できない）、近年は雪祭りが始まる前の週に開催されています（2月上旬）。

毎年、仙台、東京、横浜、浜松、名古屋、富山、大阪等全国各地からの参加者があり、今年初めて、九州からの参加者がありました。この数年、参加者は20テーブル前後に落ち着いています。常連も多く、雪祭り等はどうでもよくて、ブリッジができて、おいしいものが食べられれば良いという意見もありますが、雪祭りを一度も見たことがない人には雪像が魅力の一つであることも確かでしょう。

雪像はほぼ完成していますので大通り会場は見ることは可能です（他に真駒内会場、すすきの会場もありますが、メインはあくまでも大通り会場です）。首都圏の人は、東京から「北斗星」という夜行列車に乗って、青函トンネルをくぐり、半日間かけて来札する人も大勢います。

本大会は3日間にわたって行われます。初日の金曜日夜は顔合わせを兼ねて、1セッションの親善ペア戦が行われます。親善ペアは現在どこでも行われていませんから、目玉であることも確かです。ペアリングは原則として、ブラックポイント順に道内と道外の人を上から順に並べて順次組み合わせる方式をとっています（上の方はマナーがいいから、逆の方がいいという意見もあります）。このペアリングは尾形が行っていますので、試合当日まで私にもわかりません。

2日目は土曜日の午後から「浅井杯」（スイスチーム戦）が、終了後同会場ですべて行われます。

3日目は日曜日の朝9時30分から、2セッションのペア戦である「北海道新聞社杯」が行われます。試合の運営の方は連盟の大政氏や鈴木氏がプレイヤーとして参加して手伝ってくれています。

数年前は、終わってからもブリッジしていましたが、この頃は皆体力がなくなったためそんなことはなくなりました。北海道電力対東北電力のチーム戦をやっていたこともありましたが。

この大会は、道内のプレイヤーだけでなく、道外の人々も各地方の人たちは知り合える絶好の機会ですから、有意義に使ってくださるようお願いいたします。

私は雪祭り大会を通じて、トッププレイヤーだけでなく、数多くの人と知り合いになることができました（余談ですが、どなたか地方都市だけのブリッジ大会を企画していただけないでしょうか）。



また、このブリッジ会場は、場所としては最高に良い所にあります。7階の休息室の西側の窓の向こうには大通りの雪祭り会場が広がっています。それで満足できない人は、雪像を見るのなら夜にしましょう。ライトアップされた雪像・氷像は、幻想的な魅力を醸し出しているかもしれません。特に粉雪が舞っていれば。

観光的な面も少し触れておくことにしましょう。過去の雪祭り大会参加者の多くはこの機会に小樽まで足を延ばす人が多いようです。

小樽は札幌から電車で1時間弱の距離にあり、函館と並んで北海道開拓の入口だった伝統のある古い街です。かつて、ニシン漁の中心地だったところでもあり、魚介類、特に鮭は有名です（味音痴で、食べ物に執着のない私にはわかりません）。また、ガラス工芸の街としても有名なので、古い昔の倉庫の中につくった喫茶店でコーヒーでも飲みながら、作品を見るのも価値のあることでしょう。関心があれば石原裕次郎記念館もあります。

ちなみに、私の好みは小樽まで行く列車から見える日本海の荒々しさなのですが。

最後に過去の雪祭り大会における「浅井杯」と「雪祭りリジョナル」の優勝者を紹介して終わりにしたいと思います。

雪祭り以外でも、観光、出張等で来札の機会がございましたら、ブリッジのセッティング位はいたしますので、気軽に田村までご連絡ください。来年もまた雪祭り大会でお会いできることを楽しみにしています。

1995年10月記

#### 浅井杯

#### 雪祭りリジョナル

第1回('82)	新谷裕治・佐川洋二・木村邦春・鎌田邦広	石塚実真子・D.Howell
第2回('83)	小松睦美・中村嘉幸・石黒淑子・黒川晶夫	小松睦美・中村嘉幸
第3回('84)	谷幸子・武田千恵子・石塚実真子・田村徹	S.Bastic・H.Janssen
第4回('85)	佐藤健・佐野正・村上美恵子・植松広志	石塚実真子・田村徹
第5回('86)	大井智恵子・南川和枝・星野和子・植松広志	谷幸子・武田千恵子
第6回('87)	成田修子・小野徳次郎・葛籠忠・稲垣紘一	中島美恵子・前浦伸昭
第7回('88)	谷幸子・武田千恵子・石塚実真子・田村徹 V.D. ワープユキ・野田操・山口知也・花山武志	中川路豊子・今倉正史
第8回('89)	M.Daver・D.Daver・S.Bastic・S.Montait ・Y.Shrenzel・H.Janssen	飯山春代・飯山修
第9回('90)	谷幸子・武田千恵子・石塚実真子・田村徹	中川路豊子・今倉正史
第10回('91)	中川路豊子・今倉正史・中島美恵子・大政哲人	中川路豊子・今倉正史
第11回('92)	二司俊子・両角顕・谷幸子・武田千恵子	二司俊子・両角顕
第12回('93)	福嶋靖子・仲村篤志・小池和人・福田明美	平塚美那子・陶山光子
第13回('94)	平田隆彦・納富千恵子・中川路豊子・今倉正史	平田隆彦・納富千恵子
第14回('95)	山中とも子・林伸之・大竹利幸・M.Laforge	伏岡浩子・前田尚志 石塚実真子・田村徹

(注) 雪祭りリジョナルは第14回より「北海道新聞社杯」に名称変更

## 札幌にブリッジ常設会場ができるまで

尾形圭史

(2006年記)

札幌では廃校となった小学校の校舎活用プログラムを利用して常設ブリッジ会場を設けることができましたので、顛末を報告します。

札幌では参加するメンバーは同じなのですが、千歳BCと北電BCという2つの組織に分かれて活動しており、会場は千歳が札幌市の区民センター、北電がローカル等では北海道電力の社屋の会議室、ウィークリーでは同社の宿泊施設の娯楽室を利用してきました。しかし、昨年秋には北電社屋はセキュリティ等の関係から借りることができなくなり、また娯楽室の方はこの4月より使用料の大幅値上げが通告されていました。

一方区民センターは、料金については安くても良いものの、予約手続きが面倒で結構競争も厳しく、ボード、パソコン等の道具を毎回持って歩かねばならないという煩わしさがあります。

このように今後の会場確保について思案している中、メンバーが廃校となる豊水小学校の利用計画の情報を入手しました。豊水小学校は、ススキノ、中島公園の東隣りという札幌の中心部に位置しており、都心の小学生の減少に伴い、近隣3小学校が統合されることになったわけです。札幌市では廃校後の利用計画を検討し、豊水小学校については、1,2階部分は市の施設が入居し、3階部分は市民団体等の利用を目的にNPO（アウクル）に運営を委託し、アウクルが豊水小学校の利用を希望する団体の公募を行うことになりました。

アウクルの募集要項を読んだところ、室料は確かに通常の1/2～1/3の安さですが、いろいろ使用条件があるようですし、入居者の選定に当たっては面接もすると書かれています。募集対象には、“市民活動”なんて言葉も踊っているが、……う～ん、ブリッジって市民活動なんだろうか？ 大丈夫かな。

そんな訳で多分に半信半疑でしたが、募集締切りも近いことだし、とにかく応募だけはしようと走り出しました。応募とその後の会場使用までの準備に当たっては、クラブメンバーの全員が色々な形で協力し合った訳ですが、特に申請書類の作成では、北海学園大学の当麻先生が日頃文科省から研究費を分捕ってくるテクニックを遺憾なく発揮して、短期間のうちに素晴らしい添付資料を作成してくれました。

面接には大挙して押しかけ、数で圧倒し、その後の施設見学等にもできるだけ多くのメンバーが顔を出して印象度を高めてきました。そんな熱意が通じたのか、根負けしたのか、なんとか入居団体に選ばれました。5月7日にメンバーが提供してくれた備品等を選び込みブリッジクラブらしい雰囲気になってきましたし、施設自体も市がエレベーターの設置や補修等を実施してくれたため、なかなか立派なものです。

早速、その日チーム戦で遊んだ訳ですが、3月20日に初めて豊水小のことを聞いて、それから1ヶ月余りであれよあれよという間に、もう自分たちのブリッジ会場でプレイしていると思うと夢のようでした。

豊水小の特色は、前述のとおり NPO が運営し市民団体の活動拠点としてスペースを貸し出しているという点です。普通の貸事務所と異なり、入居団体の会合が月1回程度行われますし、入居団体同士の交流を深めることや、地域に対する情報発信、地域行事への参加も求められます。(今週は付近の川の清掃です！)

入居団体も「漂流教室」、「坂本竜馬記念館実行委員会」、「シニアネット」等々とちょっと面白そうでしょう。札幌市にとっても初めての試みで先のことは判りませんが、とりあえずは活動拠点を得られた幸運に感謝しています。

今回の応募から会場設置、それ以降のノウハウとの対応に至るまで連盟には多岐にわたりご支援、ご指導を頂きました。今後は寄贈頂いたブリッジテーブルを満杯にするほどブリッジ人口を増やしていくことが目標と考えています。いまは夢物語ですけどね。

リジョナルへの参加や旅行で札幌においでの際には、是非豊水小にお立ち寄りください。3階308号室と一緒に市民活動にいそみましよう。

「豊水小学校（アウクル）」

札幌市中央区南8条西2丁目（地下鉄「豊水すすきの駅」から5分）